



北浜中学校にきたわ。
とりいそぎ こんにちは。
展覧会、おもしろかった？
せっかくやで、もう一回
うさぎの解説つきで
かんしょうしてみよか。



うだてきそん ありやま
宇田萩郷《雪の嵐山》

えっへん、よろしく。



くるっ



うだてきそん(1896-1980)

松阪で生まれた。17歳のとき日本画の勉強をするため京都に行き、以来、ずっと京都の風物や季節のうつろいを描きつづけ「京洛の画家」とまで言われた。京都の嵐山は、春は桜、秋は紅葉の名所として昔から親しまれ、萩郷もたびたび嵐山の四季を描いた。

手前に大きく松を描き、その向こうには鳥の群れ、遠くに山並みが広がっている。どれも動きをもち、さわやかな感じと生き活きた感じが見事に一体となって表現された、たとえようもなくすばらしい、おすすめの一品です。

なんと！いきなり雪景色。今は六月っていうのに。あんな、こんな日本画は季節にあわせて飾るものやからな、ふつうこんな時期には出しませんっ。そやさかいに、みんながどうしても見るっていうんやったら気持ち冬季モードに切り替えんとあかんわ。ほらほらさむなってきたさむなってきた。お母ちゃんたのむから扇風機とめて。あらま。こんなさむいのに鳥、飛んでるわ。まあ、ありえやんこともないか。それからよく見たら人が歩いてる。なんかうれしそうやな。宇田さんも楽しんで絵、かいたんやろな。それにしても、さむっ。